

令和4年度 学校評価 学校関係者評価書

学校名	三木市立豊地小学校
-----	-----------

1 学校教育目標	誇りをもち こころ豊かに たくましく 学び続ける子の育成 ～ こころ豊かな子 たくましい子 学び続ける子 ～
2 本年度の重点目標	①確かな学力の育成・・・基礎学力の定着。学びに向かう力、表現力、自己調整力、論理的思考力の向上。 ②笑顔あふれる人間関係の構築・・・学校に誇りをもち、信頼して、安全・安心に過ごせる時間と空間の確保。

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	評価	改善の方策
学習指導	○ 主体的・対話的な学びの創造	1 児童が主体的・対話的に学べる授業づくりを目指して、全職員が1人1回の研究授業を行った。単元構想、指導計画等について事前に検討し、授業後の研修会で意見交流を行うことで、授業展開や指導方法について研修を深めた。「めあて」と「まとめ」を意識した指導はできたが、児童がより自ら意欲的に学ぶ課題設定の工夫や指導展開までには至っていない。	B	1 1人1回の公開の研究授業を継続し、教師が「主体的・対話的な学びの創造」を常に意識して、授業研究に取り組む。単元構想、指導計画においては、チームを作って案を出し合い、積極的に意見交流して、提案性のある授業づくりに取り組み、更なる授業力向上を目指す。
	1 学びに向かう力や自己調整力の育成を図るための授業づくりを行う。	2 各教科における調べ学習、まとめ新聞作り、意見交流、AIDドリル等、いろいろな場面でICTを活用して学習に取り組ませた。AIDドリルは、各自の習熟度に応じた内容が学習でき、できなかったところを復習することもできる。そのため、基礎学力の定着が図れ、集中して学習に取り組む児童が増えてきた。		2 ICTの活用については、学年が上がるにつれて児童の操作技術もレベルアップし、プレゼン作成等、表現力も育ってきているので、さらに児童の学力を伸ばすための有効な活用を模索していく。また、ドリル学習ではAIDドリルを活用し、習熟度に合わせた課題を取り入れ、必要に応じて個別指導を行い、認め励ましていく。
	2 ICTを活用して個に応じた指導を行うことにより、確かな学力の育成を図る。	3 児童一人一人の個性を大切に、有用感がもてる学級づくりを努めた。そして、主体的に学習に向かい、話し合い活動を活性化させるために、ペアやグループ、タブレット端末の活用等、意見交流の場の形態や方法を工夫した。自分と友だちの考えを比較し、見つめ直したり、深めたりしようとする姿も見られた。		3 自分の居場所を実感でき、互いに切磋琢磨できる学級・仲間づくりを目指す。意見を言いやすい学級風土をつくり、話し合いが活性化するように努める。また、個に応じた指導を工夫し、前向きに学習に取り組む児童を育てる。
	3 互いを認め合う学級づくりを基盤とし、話し合い活動の活性化を目指す。	4 ALTとの打ち合わせが十分できず、スムーズな授業展開ができたとはいえないが、デジタル教科書を活用したり、ゲームを取り入れたりすることで、児童が英語を話すことに抵抗をもち、楽しく学習に取り組むことができた。子どもたちは、少しずつALTと一緒に遊んだり、話しかけたりして関わりをもつようになり、英語に親しむ姿が見られるようになった。		4 ALTと詳細な打ち合わせができるように時間設定を工夫し、児童がより英語に親しみながら学習できるような指導展開に努める。表現力を養うために、発音練習や会話を多く取り入れる。また、児童にとって英語が身近な言語になるように、行事等で英語に触れる機会を意図的に設定する。
	4 外国語科・外国語活動において、ALTと連携し、教材を工夫することで、児童が外国語に親しみ、意欲的に取り組む授業づくりに努める。	5 毎日の課題に加え、学期に1回、「家庭学習ふりかえり週間」の取組を実施し、子どもたちに家庭学習の大切さを意識づけ、「みっきいステップ」を活用して計画的に学習する力を養うことを目指した。しかし、学習時間や内容においては個人差がある。最終日には、保護者に励ましの言葉を書いていただき、学習意欲を高めることができた。		5 児童の様子や毎日の課題の取組等、気になることがあれば家庭に連絡し、児童が前向きに学習に向かえるように支援したり、家庭での学習方法を教示したりする。また、児童にとってより効果的な取組するため、「家庭学習ふりかえり週間」の実施時期や記録用のワークシートの形式を見直す。

人権・道徳教育	○ 人権を尊重し、よりよく生きようとする児童の育成	1 発達段階に応じて作成した年間カリキュラムをもとに、児童の実態に応じた授業を展開した。授業では、児童が考える時間を十分に確保したので、意見を交流したり深めたりする場面では、児童一人一人が積極的に自分の意見を発表することができた。また、学習の最後には、「ふりかえり」等を書く場面を必ず設け、教師がその「ふりかえり」に励ましのコメント等を書くことで、児童の実践意欲を高めることにつながった。	A	1 道徳科でのより良い「対話的で深い学び」を実現するために、引き続き教材研究・授業研究等を行いながら、指導力・実践力を高めるとともに、児童の実態に合った魅力的な教材の開発に取り組む。
	1 道徳・同和・人権に係る教科書や資料、地域教材などを有効に活用し、「対話的で深い学びをめざす」授業づくりに取り組む。	2 道徳科の授業で学んだことを机上の理想論に終わらせずに、実際の生活で活かしたり、実践したりするように絶えず意識をさせてきた。そのため、学級・学年での活動はもちろん、異年齢・異学年間の活動や交流では、年上の児童がリーダーとなって、年下の児童をまとめ、主体的に活動することができた。		2 低学年は老人クラブとの花植え、中学年は環境体験活動や福祉体験活動、高学年は吉川小学校との交流(自然学校・修学旅行)など、授業だけではなく、学年活動や様々な学校行事を通して、仲間づくりや自己有用感を高める取組を継続する。また、教育事業「なかよし学級」に係る学習や交流の機会を積極的に設けながら、同和教育への理解がよりいっそう深まるように取り組む。
	2 道徳・同和・人権の授業だけではなく、全教育活動において、自他を大切に、共に高め合う仲間づくりを推進する。	3 1学期には、児童・保護者が「三木市差別をなくする輪を広げよう市民運動」に取り組む、ともに人権感覚を高めることができた。2学期には、親子人権学習と学級懇談会、PTA人権講演会を開き、学校と家庭が連携して、人権・同和学習に取り組んだ。親子人権学習を行うにあたっては、事前・事後に職員研修を行い、学習内容や展開の仕方はもちろん、人権・同和教育に係る本校の系統性等についても討議を行い、共通理解と見識を深めた。また、家庭には事前に授業のねらいや保護者の役割等について知らせておくことで、多くの保護者による積極的な参加が見られた。		3 引き続き、学校と家庭・地域が連携しながら、「三木市差別をなくする輪を広げよう運動」や親子人権学習、PTA人権講演会等に取り組む。また、学校だよりやHP、学年通信、ICT等を活用しながら積極的に情報発信を行うことで家庭の理解と協力を得られるように努める。

特別支援教育	○ 共に育ち、高め合う児童の育成	1 毎月、子ども委員会を開催し、児童の実態把握を行い、全職員で共通理解を図った。また、必要に応じて、ケース会議を行い、支援方法・支援体制について検討した。そのため、児童の細かな変化にも対応することができ、職員間での連携が図れた。スクールカウンセラーとも連携を図り、アドバイスを受け児童の効果的な支援に努めた。また、スクールカウンセラーを講師として招聘し研修を深めた。	B	1 様々な職員が多学年に関わる小規模校のメリットを生かし多面的な実態把握をもとに目標を共通理解して支援を行う。また、気になる事実があれば、ケース会議を開き、支援方法等について検討し、必要に応じて関係機関に児童の行動観察・発達相談を依頼する。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも情報共有し、助言をしていただくとともに特別支援教育を専門とする講師を招聘し、研修を積む。
	1 特別な支援を必要とする児童の実態を把握し、保護者との連携を密にしながら、SCやSSWの助言をもとに組織的な校内支援体制を確立する。	2 就学予定の園児がいるこども園と連絡をとり、様子の聞き取りをしたり園に出向いて行動観察をしたりするなど情報収集に努めた。体験入学時も共有した情報をもとに、児童の支援にあたることができた。本校への入学を検討している保護者の学校訪問を実施するなど、就学指導を行った。配慮を要する児童については、個別の教育支援計画・指導計画を活用し、有効な支援方法等を中学校に引き継ぐ。		2 就学予定の園児がいるこども園と連携し、聞き取りや行動観察等による情報収集に努め、次年度に引き継ぐ。個別の教育支援計画・指導計画、小中連携シート等を活用し、中学校への引継ぎを行う。
	2 こども園や保育所、中学校等と連携し、情報収集に努め、適切な支援方法を検討する。	3 個別の教育支援計画・指導計画を作成し学期ごとに支援の見直し等を行い、全職員で共通理解することで、同じ視点で指導・支援を行うことができた。また、保護者との教育相談を行い、教育センターでの教育相談や発達検査につなげた。その結果をもとに、今後の効果的な支援方法について検討をする予定である。		3 特別支援教育コーディネーターを中心に支援を要する児童やその保護者と連絡・連携を密にし、教育センターや医療機関など、関係機関と連携した組織的な関わりを継続して行う。児童の将来を見据え、保護者とともに個別の教育支援計画・指導計画を作成し、よりよい指導・支援を目指す。

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価方法は概ね適正であり、取組や計画には問題がないと思う。 教職員・児童・保護者アンケートの集計結果について、前年度より見やすくまとめられており、比較しやすくなっている。 今後の取組計画に期待できる。 課題を分析し、改善の方策がしっかりと計画されていると思う。
--------------------------	---

5 評価の観点ごとの学校関係者評価	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
	<p>○ 評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人一人の個性を大切に、タブレット端末も有効に利用され、個に応じた指導や発言しやすいクラスづくりに取り組まれている。 少人数学校の強みを活かし、個人の習熟度に合わせた課題を取り入れていただきたい。 全職員の一人1回の研究授業は是非継続していただきたい。 子どもたちが家庭で自主的に学習に取り組めるよう、保護者との連携を強化して取り組んでいただきたい。 子どもたちの得意なことがより大きく伸び、自己肯定が感じられるように期待する。 気になる点は、「ICTの活用」である。児童によっては、得意・不得意が出てくると思うので、個人差が出ないよう個々の指導を継続的にお願いしたい。

	<p>○ 評価Aは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 道徳授業の充実に向けた取組や、家庭と連携したPTA人権講演会、親子人権学習など、人権・同和教育に積極的に取り組まれている。今後も子ども達の人権や道徳への関心を高め、理解を深める指導をお願いしたい。 児童の豊かな心の育成のためには、学校だけでなく、家庭や地域との協力が大切である。引き続き、学校だよりやHP、学年通信等で学校や児童についての情報を積極的に発信し、家庭の理解や協力が得られるように努めていただきたい。 異学年生との交流であるとよちっ子班活動は互助の精神が養われていると思う。今後は、ネットとの向き合い方などネットリテラシーが高まる取り組みを取り入れていただきたい。 授業で学んだことを実践できるよう指導いただけているようなので、引き続き自己肯定感を高め、自分も仲間も大切にできるよう、ご指導いただきたい。
--	---

	<p>○ 評価Bは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師の自己評価はやや辛めであるが、子ども委員会、ケース会議の開催により児童の実態把握、全職員で共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーや教育センター、三木中学校との連携等、きめ細やかな取り組みがなされている。 就学予定の園児がいる「こども園」との連携も良いことだと思う。また、中学校との連携も出来ていると感じるので、今後も継続をお願いしたい。 多様社会で「互いの違いを認め合い、それを受け入れていく」利己ではなく利他の精神が身に付き寛容な人柄を育てていただきたい。 子ども委員会を開き、小規模校のメリットを生かした児童の実態把握と全職員での共通理解がされている点が評価できる。これからも研修を積み重ね、ご指導をお願いしたい。
--	---

<p>生徒指導</p>	<p>○ 人間的なふれあいを核とした児童の育成</p> <p>1 豊地っ子の三指標(挨拶・美化・時間)の習慣化及び月別生活目標の具現化により、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、正しい言葉づかいや人とのかわり方ができるようにする。</p> <p>2 感染症対策に配慮しながら、学級活動及び異年齢集団活動、全校活動等を通して、児童の自己実現を支援し、存在感や有用感が感じられる学校づくりに努めるとともに、リーダー育成のために全職員で関わっていく。</p> <p>3 不登校の未然防止・早期発見・早期対応・支援体制を確立し、全職員が共通理解を図って対応するとともに、SC・市教委・子育て支援課等との連携を継続する。</p> <p>4 SNSやインターネットの正しい使い方やつき合いができるよう、学校・家庭・地域が連携して取り組む。</p>	<p>1 三指標のうち、「挨拶」は、計画委員が朝の挨拶運動を企画し、多くの児童が運動に参加することで習慣化している。「掃除」は、異年齢集団・縦割班である「とよっ子班」で掃除場所を分担し、担当する場所を協力しながら非常に熱心に行うことができた。「時間」は、ノーチャイムながらも、児童は音楽や放送を聞いたり、自分で時刻を確認したりしながら、自主的に時間・時刻を守って生活することができた。</p> <p>2 感染症対策をしながら「とよっ子班」での様々な行事や集会、遊び等の活動を行った。「とよっ子班」活動では、6年生が中心となって活動内容を考えたり班をまとめたりするなど、一人一人がリーダー性を発揮することができた。また、高学年は低学年の手助けやアドバイスをすることで自己有用感が高まり、低学年は高学年を手本として見ることで、将来のリーダーとして成長していくなど、「とよっ子班」による活動が大いに子ども達の社会性を育むことにつながっている。</p> <p>3 学期ごとに「学校生活アンケート」を実施し、児童の実態を把握したり問題の早期発見等に努めたりするとともに、子ども委員会や職員会議の中で、定期的に要支援児童や気になる児童の様子等について情報交換と共通理解を図った。また、子ども委員会にスクールカウンセラーが参加することで専門的な視点からのアドバイスを受けることができ、必要に応じて関係機関との連携を図ることができた。このように、問題や課題に対しては学校全体で組織的に対応する体制が構築できている。さらに職員研修では、自校の「学校いじめ防止の基本方針」を確認・検討したり、「NO体罰」を活用したりすることで、いじめや体罰、不登校の無い学校づくりに一丸となって取り組んだ。その結果、今年度の発生件数はいずれも0であった。</p> <p>4 児童のICT機器等の活用状況やゲームをしたり動画を見たりする時間等についての実態を調査するために「情報に係るアンケート」を実施した。その結果を分析し、課題等を整理した上で、家庭へお知らせプリントを配布し、親子で家庭でのルールづくりについて話し合ってもらった。このように、学校校と家庭が連携して取り組むことにより、児童が規則正しい生活習慣を身につけることやICT機器を正しく活用すること等についての啓発が進んだ。</p>	<p>A</p> <p>1 朝の挨拶は、教職員など、よく知った相手に対してやや形式的に行うようになっている。初めて出会う来校者や地域の方々などに対しても同様に、臨機応変に挨拶をし、場に応じた言葉遣いなどができるよう、道徳の授業や学級活動、交流活動、児童会活動とも関連させながら、引き続き指導を行っていく。</p> <p>2 引き続き、感染症対策を行いながら、「とよっ子班」の活動を中心に、児童が主体的に活動に取り組むことができるよう、教師がアドバイスやサポートをしていく。</p> <p>3 今後も学期毎に「学校生活アンケート」を実施し、児童の実態把握と不登校の未然防止、問題の早期発見・早期対応に努める。また、問題が発生した場合には、全職員が共通理解を図って対応するとともに、必要に応じて関係者や関係機関とも連携をとりながら対応する。</p> <p>4 「学校生活アンケート」と同様に、ICTに係る調査も毎学期行うようにする。調査によって得られた結果から児童の実態を把握し、課題等について分析するとともに、通信等を通じて家庭にも伝え、「ICT機器の適切な使い方」や「規則正しい生活習慣を身につけること」等についての啓発を行う。また、家庭でのルールがきちんと守れているかについて学校でチェックを行うなど、学校と家庭が連携しながら取り組む。</p>	<p>○ 評価Aは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ・不登校の防止等、迅速かつ適切な体制作りがなされている。 本校には、とよっ子班という素晴らしい取組があり、上級生・下級生という垣根を取り払って少人数校の強みを充分に発揮できていると思う。 とよっ子班や異学年との交流で、思いやりの心や社会性を育まれている。これからも一人一人に寄り添った指導をお願いしたい。 タブレットの長時間使用やインターネット等でのトラブル回避、家庭でのインターネットやゲーム時間の制限等について、さらに家庭との連携協力を求めながら取組を継続していただきたい。 ICTやSNSの利用は、この時代必須のことであるので、正しい使い方を指導し、生活習慣の乱れにつながらないように、教職員と保護者とのさらなる連携をお願いしたい。 他市よりも早く一人一台のタブレット支給という強みを活かし、積極的にデジタルツールを使いこなす 取り組みを進めていただきたい。その上で正しいデジタルツールとの向き合い方も指導いただきたい。 不登校児童無しという現状であったが、引き続き未然防止、早期発見・対応をお願いしたい。
<p>家庭・地域との連携</p>	<p>○ 安全・安心で、信頼される開かれた学校づくり</p> <p>1 感染防止対策を講じ、実施時期や公開の仕方を工夫しながら、地域や保護者に学校行事や授業内容を公開する。</p> <p>2 地域人材・地域資料等の活用を通して、家庭や地域とのつながりを大切に、特色ある教育活動を展開する。</p> <p>3 「学校だより」を地域に配布して教育活動を周知していくとともに、学校での様子等をHPで随時発信したり、各学年通信にて伝えたりする。</p> <p>4 安全点検や避難訓練、防犯・防災学習を実施し、安全教育・防災教育を推進する。</p> <p>5 中学校区内の学校間連携を推進する。</p>	<p>1 運動会・学習発表会・150周年記念式典・マラソン大会・参観日などの行事を感染防止対策を講じながら、積極的に実施し、児童や保護者から高評価であった。コロナ禍のようにには実施できていないが、それに近い状況まで戻し実施することができた。</p> <p>2 老人クラブの花植え、増田ふるさと公園での環境体験学習など、地域とのつながりを重視した授業を実施した。各学年ともゲストティーチャーを招聘し、プロに学ぶ授業を展開できた。その結果、児童は専門的な知識を得る機会を経て、より地域に親しみをもつようになった。地域の行事に関しても開催できた行事に関しては積極的に参加する児童が見受けられた。</p> <p>3 行事や児童会活動、日ごろの授業の様子など、学校HPで随時発信できた。定期的に保護者へHP閲覧のお知らせを文書で配布したり、学年通信に掲載があることを知らせたりして、閲覧数が伸びた。各学年からも毎月末に1か月の児童の様子をまとめて発信し、どの学年の様子も知らせることができた。</p> <p>4 火災や地震など、災害が発生した場合を想定した避難訓練を実施し、その都度、反省や共通理解を行ってより良いものへと改善していった。このことにより、児童と教職員の安全への意識を向上し、危機回避能力を高めることができた。また、月に1回の校内の安全点検や遊具点検を行い、安全な学校環境づくりに努めた。</p> <p>5 今年度から、三木中学校に進学している。大規模校に進学する中で、不安を取り除くために小小交流(今年度は平田小)を行った。児童は人数が多い小学校に行っても積極的に話かけることができた。</p>	<p>A</p> <p>1 行事ごとに反省を出し合い、課題を洗い出した。改善すべき点を確実に引き継ぎ、来年度は今年度以上の充実した内容で実施する。また、タブレット端末を活用した授業に取り組み、日ごろの授業の様子を家庭に伝えられるような単元活動を実施する。</p> <p>2 新しく開発した地域人材・資料もあったが、逆にコロナ禍により実施できないものもあった。ここ数年で実施できないものの中には授業価値が高いものもたくさんあるので、次年度以降に実施できるように人材一覧を取りまとめて残す。</p> <p>3 昨年度末より、保護者への通知文書がメールシステム「すぐー」を使ってデジタル化された。今後もより一層、効果的に「すぐー」が活用できるよう、学校と地域が連携しながら、活用方法について工夫をしていく。また、今年度に続き、HPで授業内容を発信していくとともに、地域行事への積極的な参加を呼びかけていく。</p> <p>4 月に1回の校内の安全点検を引き続き継続して実施し、校内の安全に努める。また、避難訓練を学期に1度実施し、児童への防災教育を継続して行うとともに、警察と連携した防犯訓練等の職員研修を行い、防災・防犯への意識向上に努める。さらに、近年増加しているゲリラ豪雨等の訓練も実施することで安全意識や危機回避能力を高める。</p> <p>5 〇吉川小学校とは自然学校、修学旅行を一緒に行き、交流はできている。今年度、小小交流を実施したが、よりいっそう中学進学への不安をなくすために、学期に1回程度は中学校区の小学校(三樹・平田・〇吉川)と交流を行う。</p>	<p>○ 評価Aは妥当である。</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で、夏まつり・文化祭への参加は制限されたが、公民館のサマースクール、細川地域学校、藤原惺窩まつり等への積極的な参加が見られた。 「すぐー」の利便性が年々高くなっていることが実感できる。その上で「年間行事」や「スクールバス運行表」など アプリ上で確認できるとよりよいものになると考える。 HPや学校通信で地域に情報を発信され、福祉授業に地域の活動団体の指導を取り入れたり、サロンに児童も参加し、地域との交流・つながりを大切にされていると感じた。 安全点検により校内の安全に務められ、児童への防災教育にも取り組まれ、家庭・地域と連携し児童の安全意識を高めていただけていると感じる。 今年度より三木中学校への進学となったが、小小交流を行うことにより、子ども達の不安解消につながっている。今後も三木中学校区内の小学校との交流をさらに進めていただきたい。 改善策の認識の共有化もできており、今後も継続してほしい。 今後、コロナ禍の終息が見込まれるので、コロナ禍で出来なかった教育活動を実施してほしい。